

健康経営と生産性

津野 陽子

目 次

- | | |
|------------------|-----------------------|
| 1. はじめに | 4. 健康経営促進要因としての健康文化 |
| 2. 健康経営手法 | 5. 健康経営と企業・組織のパフォーマンス |
| 3. 健康と生産性のマネジメント | 6. おわりに |

従業員の医療・健康の問題を経営課題ととらえ、経営戦略に位置づける健康経営の考え方が国内外で推進されている。健康と生産性をマネジメントする健康経営手法により健康課題を可視化し、健康リスクと生産性損失コストとの関連が示されている。特に、メンタルヘルスと生産性指標であるプレゼンティーイズム損失の関連が大きい。健康経営の促進要因として健康文化が注目されており、持続可能な健康経営の取り組みにおいて重要である。

1. はじめに

生産年齢人口の減少、65歳までの継続雇用（高年齢者等の雇用の安定等に関する法律）、育児・介護離職の問題等の社会背景において、働く世代の健康維持・増進およびその生産性の向上は、個々の企業や組織にとって大きな経営課題であるだけでなく、超少子・高齢社会において人口減少社会に突入した日本全体の課題である。国民の平均寿命の延伸に対応して、生涯現役を前提とした経済社会システムの再構築が必要とされている。働く世代の健康維持・増進および生産性の向上は、企

業や組織にとって大きな経営課題であるとともに、働く世代は、生活習慣病を発症するリスクの高い集団であり、職域における健康維持・増進への働きかけが強く求められている。

従業員の医療・健康の問題を経営課題ととらえ、経営戦略に位置づける健康経営の考え方が国内外で推進されている。健康経営とは、健康と生産性の両方を同時に行うマネジメント（Health and Productivity Management：HPM）の手法である（津野ほか [2018]）。この20年の間に、欧米においては「疾病モデル」から「生産性モデル」へのパラダイムシフトがあり、医療・健康問題を



津野 陽子 (つの ようこ)

埼玉県立大学健康開発学科 准教授。東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻修了。博士（保健学）。2007年4月三菱総合研究所入社。東邦大学看護学部地域看護学研究室助教を経て、2013年より東京大学政策ビジョン研究センター健康経営研究ユニットにて健康経営研究を開始。その後、東北大学大学院公衆衛生看護学分野講師、2020年4月より現職。専門分野は、健康経営、データヘルス、産業保健。